

都 道 府 県 薬 剤 師 会
学 校 薬 剤 師 担 当 役 員 殿

日 本 薬 剤 師 会
担 当 副 会 長 乾 英 夫

**薬害教育教材「薬害を学ぼう」の配布及び
教員を対象としたアンケート調査の回収への協力について**

平素より本会会務ならびに学校薬剤師部会活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このほど、厚生労働省医薬・生活衛生局総務課医薬品副作用被害対策室より、中学3年生の主に社会科（公民的分野）を対象とした薬害教育教材「薬害を学ぼう」について、本年度においても全国の中学校への教材配布を6月に予定している旨案内がありましたので下記のとおりお知らせいたします。

当教材は、医薬品の適正使用に関する内容とも関連することから、授業実施方法等について各地域の中学校からの相談等が想定されます。そのため、本教材及び教員用の「指導の手引き」、「指導の手引き（簡略版）」、また本年度新たに作成された事例集等も参考としていただきながら、担当校から相談があった場合には、各都道府県薬務主管課と意見交換をいただきつつ効果的な授業実施方法をアドバイスいただく等、格段のご配慮をお願いいたします。

また、当教材に関しては、例年、教材作成の参考とするため中学校教員に対してアンケート調査が行われておりますが、アンケートの回収率が芳しくない状況にございますことから、昨年度より学校薬剤師に対し、回収率向上への協力が求められました。つきましては、アンケート回収率の向上のため、担当校（養護教諭もしくは養護教諭を通じて授業を担当する社会科等の教員）に対して、当教材に対するアンケートへの回答を促していただくよう、貴会学校薬剤師関係者等への周知をお願い申し上げます。

なお、下記1～5の教材及び資料につきましては、厚生労働省ホームページで閲覧可能であることを申し添えます。

記

- 1 薬害教育教材「薬害を学ぼう」の配布予定等について（平成30年度用）
及びアンケート票（平成30年5月16日．医薬品副作用被害対策室事務連絡）
※アンケートは中学校に対するものであり、学校薬剤師が記載するものではありません。

- 2 薬害教育教材「薬害を学ぼう」
- 3 指導の手引き
- 4 指導の手引き（簡略版）
- 5 薬害に関する授業実践事例集
- 6 [参考] 厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakugai/index.html>

「薬害を学ぼう」で検索、左側メニュー「参考資料等」より各資料の閲覧が可能

以上

事 務 連 絡

平成30年5月16日

日 本 薬 剤 師 会 御 中

厚生労働省医薬・生活衛生局総務課
医薬品副作用被害対策室

薬害教育教材「薬害を学ぼう」の配布予定等について（平成30年度用）

医薬品行政の推進につきまして、日頃から特段の御配慮をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、厚生労働省では、文部科学省の協力を得て、中学3年生を対象として薬害を学ぶための教材を作成し、平成23年4月から全国の中学校（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。）に配布しています。

本年度も昨年度同様、薬害についての理解を深め、薬害が起こらない社会の仕組みを考えるための教材として作成し、主に社会科（公民的分野）において御活用いただくことを想定して、6月に各教育委員会及び全国の中学校宛て教材を発送する予定ですので、御連絡いたします。

なお、本教材と併せて「薬害を学ぼう」の視聴覚教材、教員用の指導の手引き、教員用の指導の手引きの簡略版及び新たに作成する事例集も配布する予定です。

本趣旨を御了知の上、本教材が有効に活用されるよう、授業実施方法等について、各学校より相談があった場合には、各都道府県薬務主管課と意見交換しながら、効果的な授業実施方法のアドバイス等特段の御配慮をお願いいたします。

また、各中学校に送付予定のアンケートの回収率向上に向けて、学校薬剤師の方々の御協力をいただけますよう、特段のご配慮をお願いいたします。

（注）平成23年度及び平成24年度においては、「薬害って何だろう？」という名称で配布していますが、平成25年度から「薬害を学ぼう」に名称を変更しました。内容については、従前のものから変更はありません。

（注）本事務連絡に同封する事例集は暫定版であり、6月発送時には表紙デザイン等に変更が生じる可能性があります。

担 当
厚生労働省医薬・生活衛生局総務課
医薬品副作用被害対策室
室長補佐 川瀬
電話 03-5253-1111（内線 4230）
（夜間 03-3595-2400）
FAX 03-3501-2052

各中学校 ご担当者 様

《 薬害教育テキスト「薬害を学ぼう」に関するアンケート 》

「薬害を学ぼう」に関し、以下の質問にお答えください。（該当する番号に○をつけ、空欄には自由にご記入ください。）
今後の教材作成に役立てるため、9月28日(金)までにFAXでご回答いただきますようご協力をお願いします。

1 使用状況・予定

① 授業等で使用した(又は使用予定) ② 授業以外で、配布のみ行った(又は配布予定) ③ 使用・配布の予定はない

1-1 「①授業等で使用した」場合は、どの教科等で使用したかご記入下さい。

(※ ②保健体育科で使用する場合は、**薬害問題は、薬物乱用防止とは全く異なる問題であることにご留意下さい。**)

① 社会科 ② 保健体育科 ③ 総合的な学習の時間 ④ その他()

上記で記入した教科等の中において、どのような内容に関連して使用したかご記入ください。

①消費者の保護 ②人権 ③公害 ④医薬品の適正使用 ⑤エイズ・感染症の予防
⑥薬物乱用 ⑦その他()

2 教材の発送時期について

①ちょうどよい ②早すぎる ③遅すぎる

上記において、「**②早すぎる**」又は「**③遅すぎる**」場合は、その理由をご記入ください。
併せて、発送の時期として適切と考えられる時期をご記入下さい。

3 指導の手引きについて

① 内容が適切 ② 内容が難解 ③ 内容が易しすぎる ④ 使っていない ⑤ その他

上記で**②内容が難解**、**③内容が易しすぎる**、**④使っていない**、**⑤その他**を選択された場合、改善点等をご記入ください。

4 視聴覚教材について

① 授業等で使用した(又は使用予定) ② 使用の予定はない

上記で**①授業等で使用した(又は使用予定)**を選択された場合、使用方法、使用した感想、改善点等をご記入ください。

5 その他このテキストや同封した指導の手引きについて、ご感想・ご意見がありましたら、ご記入ください。（授業での活用方法や活用において工夫した点、また活用に当たって問題となった点などご自由にご記入ください。）

_____都道府県 _____立 _____中学校

ご担当者名 _____ 電話番号 _____

ご協力よろしくお願いします。 お問い合わせ先：医薬品副作用被害対策室（TEL 03-3595-2400）

薬害を学ぼう



どうすれば防げるのか？



なぜ起こったのか？



やく がい

薬害ってなんだろう？

薬には病気を治す働きがある一方で、それ以外の好ましくない働き(副作用)が起こる場合があります。

例えば、「かぜ薬を飲んだら眠くなった」、「注射をしたら、針を刺した部分が少し腫れた」という経験をしたことはありませんか？

しかし、「薬害」と呼ばれているものは、このような副作用とは異なる問題のようです。

単なる副作用と薬害は、どこが違うのかに注目しながら、薬害の歴史を見てみましょう。

年表

1950

企業の製造ミスが原因でワクチンにジフテリア毒素が残っていました

1948(昭和23)年～1949(昭和24)年

ジフテリア予防接種による健康被害

【被害者】924人(死亡83人)



1979(昭和54)年 知解

1960

HIV感染のような悲惨な被害を再び発生させないよう努力する決意を銘記した「誓いの碑」。

厚生労働省の敷地内に1999(平成11)年8月24日建立。



1970

薬害エイズ

血液製剤による

主に血友病(出)として使用している患者がHIVに感染



非加熱血液製剤

血液などを原料とする薬で、加熱して滅菌処理をしていないもの

1958(昭和33)年頃～1962(昭和37)年頃

サリドマイドによる胎児の障害

【被害者】約1,000人

1953(昭和28)年頃～1970(昭和45)年頃

キノホルム製剤によるスモンの発生

【被害者】1万人以上

1959(昭和34)年頃～1975(昭和50)年頃

クロロキンによる網膜症

クロロキンによる網膜症

マラリア(亜熱帯・熱帯地域に多い感染症)治療のために開発された「クロロキン」という薬を使った人に、目が見えにくくなるなどの症状が起りました。製薬会社が薬の危険性について注意を払っていれば、被害を最小限に食い止められたかもしれません。

1973(昭和48)年頃

解熱剤による四頭

【被害者】約1万人

解熱剤による四頭筋痙攣症

乳幼児期に熱を下げる薬などがみだりに筋ごとで、膝が曲がらないなどの被害が全国的

【表紙写真説明】

左上および左中央:「サリドマイド」の被害者、右上および右下:「スモン」の被害者の写真

左下:厚生労働省にある「誓いの碑」/ (碑文) 命の尊厳を心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件 このような事件の発生を反省してこの碑を建立した 平成11年8月 厚生省

学習のポイント

point
1

年表に示された薬害はどのようなものだったか確認しよう。

point
2

年表中の薬害について解説した文章を読み、薬害発生についてどのような共通点があるのか考えてみよう。

1980

～1988(昭和63)年頃

血液製剤によるHIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染

【被害者】14,000人以上

1990

2000

薬人血止止血病
るHIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染

血時に血が止まりにくい(病気)の患者が止血・出血予防の薬
た非加熱血液製剤にHIVが含まれていたため、多くの血友病
染しました。製薬企業は薬の危険性を知らずに販売を続け、
止の有効な対策を取らなかったことで被害が拡大しました。

1989(平成元年)年～1993(平成5)年

MMRワクチン接種による無菌性髄膜炎

【被害者】約1,800人

MMRワクチン接種による無菌性髄膜炎

はしか(M)、おたふくかぜ(M)、風しん(R)を予防する
ワクチンの接種により、多くの子どもが無菌性髄膜炎
(ウイルスにより脳の膜に炎症が起こる病気)などを
発症し、重い後遺症や死亡などの被害も発生しました。
製薬会社が「国に報告していない薬の作り方をしていた、
国の監督が不十分だったなどと指摘されました。

血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染

【被害者】約1万人(企業の推計)

血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染

出産や手術の際に、止血剤として使用された血液製剤
にC型肝炎ウイルスが入っていたため、多くの人がウイ
ルスに感染し、慢性肝炎や肝がんなどの病気になりま
した。製薬企業の製造責任は重く、国は甚大な被害の
発生、拡大を防止
できませんでした。

～1997(平成9)年頃

ヒト乾燥硬膜の使用によるプリオン感染症
(クロイツフェルト・ヤコブ病)

【被害者】141人

1970(昭和45)年代頃～

陣痛促進剤による被害

陣痛促進剤による被害

陣痛促進剤による胎児の死亡や重度の脳性麻痺、母親が
死亡するなどの被害が起きました。薬の効き具合の個人差
が大きいかもかわらず適切な使用方法が徹底されな
かったことなどが原因と言われています。

筋短縮症

肉注射された
に起きました。

被害者は年齢が進むとともに
毎日の生活行動に苦しんでいます。

薬害とはどのようなものなのか 被害者の声を聴いてみよう。

薬害をより深く知るために、被害者の声に耳を傾けてください。

被害者の声を聴いてどのように感じるでしょうか？

そして薬害とはどのようなものなのか考えてみましょう。

スモン被害者 高町晃司さん

私たちを受け入れてくれる社会になってほしい

私は54歳です。スモン病を発症したのは4歳の頃。歩行困難は何とか治りましたが視力は戻らず、盲学校に入学することになりました。その頃は、自分が視力障害者になったことをさほど悲観的に考えてはいませんでした。しかし学校を卒業しても就職先が見つかりません。ほとんどの企業が障害者があると言っただけで、就職試験すら受けさせてはくれませんでした。障害を抱えて生きて行くことは大変なことなのです。私たちは、まだこれから何十年も生きていかなければなりません。これまでは両親が私の治療や教

育を最優先にして、私を支えてくれました。しかし、これからは一人で生きて行かなければなりません。私が自立して生きて行くことが、両親の労苦に報いる道だと思っています。そうはいっても将来を考えると決して希望を持つことはできません。もちろん、自立のための努力は続けます。ですから、そんな私たちの努力を受け止めてくれる社会になってほしいというのが、今の私の願いです。



サリドマイド被害者 増山ゆかりさん

被害を繰り返さないために—この薬の危険性を知って慎重に使用してほしい

私たちサリドマイド被害者は、生涯にわたって多くの犠牲を払ってきました。親が離婚した人、親元を離れて病院や施設で暮らさなければならなかった人がいます。学校でいじめられた人、道を歩いているだけで「あっちに行け」と石を投げられた人もいます。大人になった今も、不自由な体で無理をして仕事や家事をしてきたため、体の不調を訴える人が多いです。障害のためにやりたいことが出来ない自分が悲しくなります。どんなに努力しても願いが叶わないことがたくさんあります。しかし、私たちはそれを恨んでも道が拓く

ことはないと思っています。力強く生きること苦難を乗り越えるしかないのです。このサリドマイドが、現在、再び認可され使われています。多発性骨髄腫という血液のがんやハンセン病の症状に効果があることが分かったためです。薬そのものが悪いのではない—二度と同じような被害を起こさないために、この薬の危険性をよく知って、慎重に使用してほしいと思います。



※写真は、ご本人が幼少時のものです。

HIV被害者 後藤智己さん

もっと早く、正しい情報が公開されていれば…

私は生まれつき血友病で、足の関節が痛くなって歩けなくなったりするので、小学校は休みがち、体育はいつも見学でした。血液製剤を使うようになってから出血からの回復が早くなり、活動範囲も広がりました。でも中学時代にエイズウイルスが混入した血液製剤を使い、HIVに感染しました。それを知らされたのは、大学生になってから。うすうす気づいてはいましたが、やはりその時は目の前が真っ暗になりました。以来20年以上、HIVの偏見・差別におびえながら、副作用の厳しい抗HIV薬を飲み続けています。血

液製剤にエイズウイルスの混入の話が出たとき、医療者らが情報をきちんと公表していれば、感染せずにすんだかもしれません。すぐにHIVに関する正しい知識を普及させていけば、凄まじい偏見や差別を受けることもなかったのに……。このようなことをまた繰り返さないように、情報を隠さず、またみんなが正しい知識を得て、偏見・差別のない社会を目指してもらいたいと思っています。



学習のポイント

point
1

被害者がどのようなことに苦しんでいたのかを整理してみましょう。

point
2

被害者は薬害をどのように考えているのかをまとめてみましょう。

C型肝炎被害者 手嶋和美さん

中学2年の息子に肝炎にかかっていると告げるのは、とても辛かった

1980年、三男出産の時に出血が止まらなくなり、フィブリノーゲン製剤を投与されました。米国ではそれより3年前に、それを使うとC型肝炎になる危険があるので使用が禁止されていました。2年後四男を出産しました。それから十数年後、検査の結果、私はC型の慢性肝炎になっていました。肝硬変や肝臓ガンになって死ぬ率が高い怖い病気です。恐れていた四男への母子感染も判明。何も知らずに私は息子に肝炎ウィルスをつとしてしまっていたのです。授業や部活に日々充実した中学校生活をおくっている四男に何と説明したらいい

のか…。何日も悩みました。告知した時、「そうやるうねえ」と四男は覚悟を決めたようにそう言い、黙って自分の部屋に入りました。その日、夕食時には明るく振舞っていた息子の気持ちを考えると…米国で使用が禁止された時に日本でも同じように対応していれば、そうしたら私達母子はC型肝炎になることはありませんでした。二度と薬害を起こさないでほしい。私はそのために精一杯のことをしたいと考えています。



※C型肝炎に関する詳しい情報は、「薬害肝炎全国原告団ホームページ」<http://www.yakugai-hcv.jp/> 参照

MMRワクチン被害者のお母さん 上野裕子さん

早くMMRワクチンを中止してほしい

私の娘は、MMRワクチンが導入された1989年(平成元年)の6月に生まれました。1991年4月娘が1歳10ヶ月になった時は、ししかの予防接種を受けさせるつもりで受診した小児科で「3回が1回で済むから」という医師の勧めを断り切れずにMMRワクチンを接種されてしまいました。当初から副作用が多発していたのに、導入から2年たったその頃でも「ししか単独よりMMRを」と積極的に勧めていた所もあったのです。何故早期に中止してその安全性について見直しをしていなかったのでしょうか。小さな子ども

の命や未来をおびやかすようなワクチンがあつてよいのでしょうか。娘は接種から14日後に重い脳症にかかり、一命はとりとめたものの元の娘に戻ることはありませんでした。それ以来、自分では何ひとつ出来なくても、無心に命のあかりを灯し続ける娘の姿に励まされながら暮らしてきました。しかし今でも、あの時代にMMRワクチンさなかつたら、残念でなりません。



MMRワクチン被害者
上野 裕子さん

クロイツフェルト・ヤコブ病被害者のご主人 上野韶彦さん

今でも心のなかで「妻を返して下さい」と叫び続けています

妻が体の不調を訴えて検査入院、1ヶ月半後に告げられた病名は「クロイツフェルト・ヤコブ病」。この病気は現代医学でも治療法がない100万人に1人の確率で罹患する珍しい病気だと。それはまさしく「死の宣告」でした。病気の進行はとても早く、病名がわかった時には、もはや意思の疎通もできず、寝たきりの状態に。私にできることは、ただジッと妻の顔を見ることだけ…本当につらい毎日でした。診断からわずか7ヶ月後に妻は力尽きて、私を残して一人で旅立ってしまいました。「なぜヤコブ病になったのだろ

う?」その後、10年前の開頭手術の時に使用された外国製の医療用具(ヒト乾燥硬膜)が原因であることがわかりました。なぜ、病原体に侵された医療用具が製造され、流通したのでしょうか。なぜそのような製品の輸入を国が承認したのでしょうか。いのちが粗末に扱われる昨今、妻と闘った日々の記録を一人でも多くの人に伝え、二度と同じ過ちが繰り返されないように強く念じています。



なぜ薬害は起こったのだろう？

これまで数々の薬害が繰り返されてきました。なぜ薬害は起こったのでしょうか。
代表的な薬害を詳しく見ながらその原因を考えてみましょう。

キノホルム製剤によるスモンの発生

■「キノホルム」は、1900年頃にスイスで傷薬として販売された薬で、日本では整腸薬として使われるようになりました。1960年代、キノホルムの入った整腸薬を飲んだ人に、全身のしびれ、痛み、視力障害などが起こりました。当初は伝染病が疑われ、原因究明が遅れたため、1万人を超える人が被害にあったといわれています。

■当時、世界各国でキノホルムの危険性に関する警告がなされていましたが、製薬会社は「安全

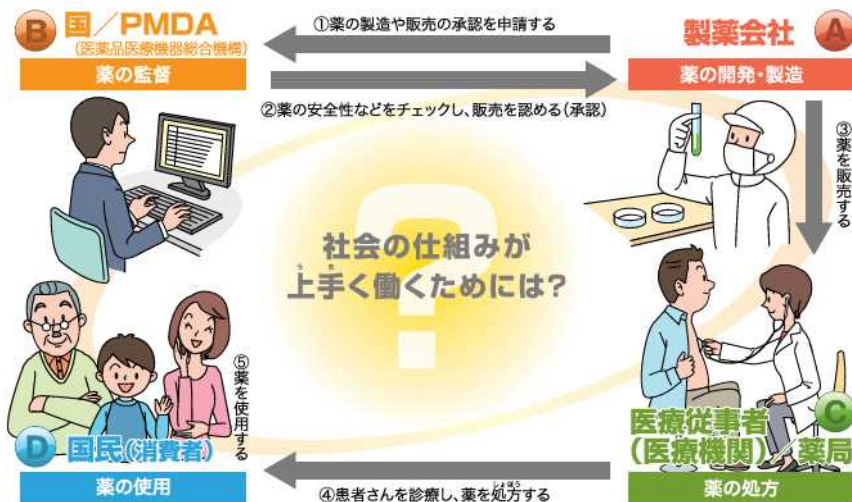
な整腸薬」として販売し、医師はそれを疑うことなく患者に処方し、国も安全性の審査が十分にされず、未曾有の被害を起こしてしまったのです。

■これらをきっかけに、薬の安全性を確保するための法律改正や薬の副作用で被害を受けた人を救済する制度の創設がなされました。スモンは、社会の仕組みに影響を与え、国や製薬会社、医療従事者といった関係者に様々な教訓をもたらした薬害です。

どうすれば薬害が起こらない

これまで数々の薬害について見てきました。どうやら薬害は、下図に示された社会の仕組みがうまく社会の仕組みがうまく働くように、薬を作る製薬会社、薬を承認する国、薬を処方する医師や薬剤師

関係者には、それぞれどのような役割があるのだろう？



学習のポイント

point
1

国、製薬会社、医療従事者は何をすべきだったのか考えてみよう。

point
2

どのような制度ができたのか調べてみよう。

サリドマイドによる胎児の障害

■「サリドマイド」は1960年前後に睡眠薬や胃腸薬として販売された薬です。はじめは西ドイツで販売され、日本でも「妊婦や小児が安心して飲める安全無害な薬」をキャッチフレーズに販売されました。

■ところが、この薬を妊娠初期に服用した母親から、手や足、耳（聴力）、内臓などに障害のある子どもが次々と誕生したのです。これに気づいた西ドイツの医師がサリドマイドの危険性を警告し、欧州各地ではすぐに薬の販売中止と回収が行わ

れました。しかし、日本で薬の販売中止が発表されたのは警告後10ヶ月も経った後となり、被害が拡大したのです。

■これをきっかけに、薬の副作用が胎児に及ぶ場合があることが広く知られ、胎児への影響の確認（動物実験）が義務づけられました。また、副作用の発生を監視する制度が作られるなど、薬の安全性の確認がより注意深くなされるようになりました。



撮影：田村 茂

社会になるのだろうか？

働いているかどうかと関係があるようです。

そして薬を使う私たちがそれぞれどのような役割を果たせばよいのか考えてみましょう。

学習のポイント

point
1

次の文章中の「？」に入るものは何かを考えながら、図に示す私たちの社会の仕組みがどのように働けばよいのか説明してみましょう。社会の仕組みがうまく働いて薬害の発生を防ぐためには、図中のA・B・C・Dがお互いに「？」を共有し、それぞれの役割を果たすために活用する。

もっと詳しい役割を見てみよう！

B

国 / PMDA

■薬の有効性・安全性や、製薬会社の行動などをチェックする役割

- ▶薬の安全性などをチェックするための基準を作成する
- ▶薬の承認を取り消す、薬の回収命令など製薬会社に対する適切な指導を行う など

A

製薬会社

■様々な試験などを通じて、安全な薬を開発・製造する役割

- 薬の販売を開始した後も情報を集め、適切な対応をする役割
- ▶危険が分かっていた薬の販売中止・回収
- ▶薬の説明書（添付文書）を通じて正しい情報を伝えるなど

D

国民（消費者）

■消費者として主体的に関わる役割

- ▶自分の使う薬に関心を持つ
- ▶関係者（国、製薬会社、医療機関）の役割や行動をチェックするなど



C

医療従事者（医療機関）／薬局

■薬を正しく処方する役割、薬の情報を正しく説明する役割

- ▶薬の使用後の状況を見極めて処方するなど
- 薬の副作用が起きた場合に国や製薬企業に報告する役割

薬害が起こらない社会を目指して 私たちにできること。

これまで見てきたように、過去には多くの悲惨な被害が起きてきました。

私たちは、このような被害に学び、二度と薬害が起こらない社会を目指す必要があります。そのため何が必要なのか、私たちがすることは何なのか、みんなで考えてみてください。

学習のポイント

薬害の起こらない社会にするために、どうすればいいのか次の3点から考えてみよう。

- 薬の安全性などの情報を共有し、関係者がそれぞれの役割を果たすためには具体的にどのようなことをすればよいか。
- 私たちが消費者の立場から、薬に関する情報を得たり、薬を使用して問題があった場合にはどのような情報を発信すればよいか。
- 今の社会の仕組みで改善する点はないか。どのような点を改善すればよいか。



「健康被害救済制度」について



薬による健康被害を受けた人々を救済するために、「医薬品副作用被害救済制度」などの公的な救済制度があります。これは、サリドマイドやスモンを契機としてつくられたものです。このサイトでは、薬の副作用情報も見ることができます。

**独立行政法人
Pmda 医薬品医療機器総合機構**
詳しくはコチラ▶ <http://www.pmda.go.jp/>

- 医薬品の副作用情報に関する情報
<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>
- 医薬品の副作用による被害の救済に関する情報
http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html



関連サイト

- 厚生労働省(本テキストの参考資料)
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/yakuhin/yakugai/index.html>
厚生労働省の本テキストに関するサイトです。より詳しい情報などを見ることができます。
- 一般社団法人くすりの適正使用協議会
<http://www.rad-ar.or.jp/>
薬のリスクとベネフィットを一般消費者にわかりやすく解説しているサイトです。
「くすりのしおり」<http://www.rad-ar.or.jp/siori/index.html>
では、現在使われている約15,000種類の薬の詳しい情報を見ることができます。

- 全国薬害被害者団体連絡協議会
<http://hkr.o.oo7.jp/yakugai/>
主な薬害被害者団体が加盟している協議会のサイトです。各被害者団体のサイトにリンクしています。
- 学校保健ポータルサイト
<http://www.gakkohoken.jp/>
公益財団法人日本学校保健会が運営する子どもたちの保健に関する情報を集めたサイトです。
「薬の正しい使い方(中学生用)」<http://www.gakkohoken.jp/books/archives/62>では薬に関する様々な情報が掲載されたテキストをダウンロードできます。

薬害を学ぼう

どうすれば防げるのか? なぜ起こったのか?

厚生労働省医薬・生活衛生局では、平成22年7月から、文部科学省の協力を得て、「薬害を学び再発を防止するための教育に関する検討会」を開催し検討を行い、中学3年生を対象とした薬害を学ぶための教材を作成して、平成23年度から、毎年、全国の中学校に配布しています。

本教材は、「薬害」と呼ばれている医薬品等による健康被害を知るとともに、その発生の過程や社会的な動き等を学ぶことを通じて、今後、同様の被害が起こらない社会の仕組みの在り方等を考えることを目的としており、主に社会科(公民分野)で活用されることを想定しています。

本サイトは、教材をより有効にご使用いただくための参考資料(「薬害教育教材の活用の手引き」等)を集めたものですので、是非ご活用ください(「参考資料等」をご参照ください)。(27年4月改訂)

(注)教材について、平成23年度及び平成24年度は、「薬害って何だろう?」という名称で作成していましたが、平成25年度から「薬害を学ぼう」に名称を変更しました。内容については、これまでと変更はありません。

厚生労働省医薬・生活衛生局総務課
医薬品副作用被害対策室

PDFファイル 閲覧について



PDFファイルを見るためには、Adobe Readerというソフトが必要です。Adobe Readerは無料で配布されていますので、上記のアイコンをクリックしてダウンロードしてください。



【※高画質版】  [表紙と最終頁 P1～P2 P3](#)
[～P4 P5～P6](#)

■『薬害を学ぼう』視聴覚教材

◆全編再生

◆チャプター再生

- [1] [薬の基礎知識—主作用と副作用](#) 
- [2] [薬害の歴史](#) 
- [3] [被害者の声](#) 
 - 1. [スモン\(高町晃司さん\)](#) 
 - 2. [サリドマイド\(増山ゆかりさん\)](#) 
 - 3. [HIV\(後藤智己さん\)](#) 
 - 4. [C型肝炎\(手嶋和美さん\)](#) 
 - 5. [MMRワクチン\(上野花さん、上野秀雄さん\)](#) 
 - 6. [クロイツフェルト・ヤコブ病\(上野韶彦さん\)](#) 
- [4] [代表的な薬害の概要](#) 
 - ・[スモン](#) 
 - ・[サリドマイド](#) 
- [5] [医薬品をめぐる社会の仕組み・役割](#) 
- [6] [私たちにできること—学習のまとめ](#) 